

〔海況概要〕

今週の本県近海の表面水温は、11～18℃台を示し、平年並み～やや高めの水温でした。

〔漁況概要〕

- 中小型まき網――西彼地区では、マサバなどが1日1統当たり30トンの水揚げで、前週の4.3倍（前年を上回った）。五島奈留地区では、カタクチイワシなどが1日1統当たり1トンの水揚げがあった（前年を上回った）。北松南部地区では、カタクチイワシなどが1日1統当たり14トンの水揚げで、前週並み（前年を上回った）。
- イカ釣――スルメイカは、対馬東岸地区では1日1統当たり158kgの水揚げで、前週の1.7倍。（前年並み）。壱岐勝本地区では、1日当たり11トンの水揚げで、前週の1.4倍（前年を上回った）。
- 定置網――五島有川地区では、スルメイカなどが1日1統当たり254kgの水揚げ。五島魚目地区では、ブリなどが1日1統当たり1トンの水揚げ。対馬西岸地区では、マアジなどが1日1統当たり71kgの水揚げ。対馬東岸地区では、スルメイカなどが1日1統当たり75kgの水揚げ。
- 一本釣――北松宇久地区では、ヒラマサなどが1日当たり132kgの水揚げで、前週並み（前年を上回った）。

〔日本海スルメイカ情報〕

今期（2/20～2/25の6日間）沖合イカ釣り船、船凍船は大和堆付近～隠岐諸島北側海区及び太平洋赤イカ海区出漁。

沿岸イカ釣り（氷蔵船）は、壱岐・対馬及び山口沖～浜田沖～隠岐諸島周辺～能登半島沖に出漁。

鳥取県西部（沖合船）5日延40隻、総計2,658箱、1航海最高125箱、平均66.5箱。

スルメイカを中心に漁獲、魚体は20～25入り主体。

今期も山口沖～隠岐周辺海区が主漁場となった。

（漁業情報サービスセンターより）

〔お知らせ〕

長崎県庁ホームページ「地方機関 総合水産試験場」の「漁海況情報」から漁海況週報や漁海況通信をご覧ください。

<https://www.pref.nagasaki.jp/section/suisan-shiken/index.html>